



SOCIAL  
MASTER  
SCHOOL

# 生涯現役

北九州市  
生涯現役  
夢追塾

16  
期生

北九州市  
生涯現役  
夢追塾



[www.facebook.com/yumeijuku/](http://www.facebook.com/yumeijuku/)

夢追塾ホームページ [www.yumeoi.org/](http://www.yumeoi.org/)

お問い合わせ先

北九州市生涯現役夢追塾事務室 〒805-0071 北九州市八幡東区東田2丁目5-7 (NPO法人 里山を考える会 内)  
TEL.093-662-3100 FAX.093-662-3800 Mail:[info@yumeoi.org](mailto:info@yumeoi.org)

※「生涯現役夢追塾」は、北九州市より指定管理者の指定を受け、「北九州市社会福祉協議会・里山を考える会 共同事業体」が運営を行っています。

発行日 2022年3月

# これから 夢追塾に 期待すること

生涯現役夢追塾  
名譽塾長 北橋 健治



生涯現役夢追塾は、平成18年度に、夢や志のある50歳以上の方々が、これまで培つてこられた経験・技能・人脈等を生かし、年齢に関わりなく、社会の担い手として「生涯現役」でご活躍いただくことを目指し、開塾しました。これまでに500名近くの方々が卒塾されています。

一昨年から続く新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、生活の様々な面に影響を及ぼしています。一方で、在宅での勤務やリモートによる授業が広がるなど、デジタル化の急速な進展も見られ、生活様式に新たな変化をもたらしています。

生涯現役夢追塾においても、感染拡大防止のため、昨年度からいち早くオンラインを活用した講座や活動を取り入れており、今年度は公開プレゼンテーションなども実施されました。こうした活動は、本市が積極的に推進しているDX（デジタル・トランスフォーメーション）の取組をより一層後押しするものであり、大変心強く思っています。

塾生の皆様には、今後も社会環境や

価値観の変化に対応したアクティブシニアの中核として、また、地域社会をリードする存在として、存分に力を発揮していただくことを期待しています。

さて、本市では、地方創生の取組を効果的に発信するため、新たな都市ブランド「New U」を策定しました。ビジネスも、暮らしも、子育ても、「あたりのことを、はじめやすい都市。福岡県北九州市」というスローガンの下、本市の魅力や都市としてのポテンシャルを効果的に発信しています。生涯現役夢追塾の皆様もその一翼を担い、更にチャレンジしていただきたいと思います。

今後も活力と賑わいにあふれる「日本一住みよいまち」の実現に努めてまいりますので、より一層のお力添えをお願い申し上げます。

結びに、塾生の皆様の今後ますますのご活躍を祈念するとともに、生涯現役夢追塾を支えていただいている関係の皆様に深く感謝を申し上げ、挨拶とさせていただきます。

## 夢追塾のミッション

すでに突入している長寿社会においては、仕事や家庭だけでなく、自分たちの住まう地域社会で市民一人一人が役割を持ち、活動していくことが必要とされています。

特にシニア世代は、本人も気づいていない様々な資源を持っており、それらを地域で活用することが期待されています。

生涯現役夢追塾ではそんなシニア世代がこれまでにない学び方で、自分の資源価値に気づき、同じ志を持つ仲間を作り、地域で夢を実現させることをミッションとしています。

シニア世代がいきいきと夢を実現し、社会に貢献していくことが、長寿社会をよりよい世界に導くことにつながると信じています。



## 生きづらい人の 居場所を 作るための、 私の居場所

おおかわちよしき  
大河内 義貴さん



インタビュアー／大塚翔太  
(北九州市立大学経済学部4年生)

## 16期生 Interview

海外の孤児院に興味を持ち、29歳の時にミヤンマーに旅立った大河内さん。お金や物に囚われず、家族や友達との関係を重視するミヤンマーの幸せの基準に居心地の良さを感じたそう。帰国してから夢は、生きづらさを感じている人のための居場所をつくること。しかし、具体的にどうやっていいかわからず、頼れる人脈もあまりない。そんな時に夢追塾の存在を知り、入塾を決めた。3分間スピーチで身についた発信力、テーマの研究で身についた知識など夢追

塾で得たものは大きい。時にはチムプロジェクトと自分のテーマのズレや、仕事との兼ね合いで悩んだこともあった。しかしコーディネーターに意見を受け止めてもらい、このプロジェクトが自分の夢にも繋がると実感するようになった。今後は夢追塾のプロジェクトと並行し生きづらさを感じている人の居場所づくりもしていく。今では夢追塾が自分の居場所だという大河内さんの眼はきらきらと輝いていた。

真っ直ぐな眼で夢を語ってくれた大河内さん。仕事の時間だけでなく、休日にもボランティア的活動をして、人のために時間をつくっている姿勢に感激した。人のために行動することは簡単なことではないと思う。大河内さんの幸せの基準が人ととの関係によって形成されているのだと強く実感した。私は今年4月に就職する。自分のためだけではなく人のために行動するという事について改めて深く考えさせられた機会となつた。

## 生涯現役夢追塾

### 16期生、コーディネーター

北九州市立大学経済学部  
松永ゼミ

大河内 義貴 おおかわちよしき

岡本 千優 おかもとせんゆう

末川 紀美恵 すえかわきみえ

藤澤 佳隆 ふじさわよしたか

小田 修司 おだしゅうじ

下田 良雄 しもだよしお

大塚 翔太 おおかわちよしき  
小坂 真穂 こさかまほ  
岩井 萌果 いわいもえか  
宇土 沙代 うどさよ  
坂本 優花 さかもとゆうか  
大畠 美羽 おおはたみう



末川 紀美恵さん  
すえかわ きみえ

経験から  
挑戦へ



NPO法人里山を考える会で夢追塾の事務局を務める末川さんは、50歳になったことをきっかけに入塾を決めた。人前で発言することが苦手だったが、夢追塾の授業を通して発言していくことで他の塾生との繋がりを持てたことが良かったという。また他の塾生の方の趣味の話を聞いて興味を持ったこともあり、新しい刺激をもらえたそうだ。講義だけではなく何気ない話が刺激になることがあるのだ。苦手な発表の回には休みたいと思うこともあったというが、最後

## 16期生 Interview



岡本 千優さん  
おかもと せんゆう

射した光と  
将来への道



までやり遂げることができた成果を感じている。今後は、新型コロナの影響で夢追塾の塾生が減少している課題についても何とかしたいと語る。どちらかといふと自分が主役としてやるよりも「がんばっている人のお手伝いをしたい」タイプだという末川さんだが、夢追塾での経験が挑戦につながりそうだ。これから塾生を取り戻し、地域で夢を追う人たちのサポートをしていきたいという。

人前で話すことが苦手で発表をすることは学生時代以来だつたという末川さんが、発言することに対して苦手意識をなくすことができたことは夢追塾に入塾して学び続けたことの成果だと感じた。きっといくつになっても自分の短所や克服したい所はあるだろう。それに對して向き合い、学びを継続していくことが新たな夢を生み出すということを今回のインタビューを通して改めて感じることができた。

## 16期生 Interview

50歳になつたら夢追塾に入りたい！當時、塾生だった上司の姿を見てそう感じていた。上司が語る楽しそうな活動に胸を打たれた。退職まであと3年というタイミングで入塾を決意する。しかし、実際の活動は「思っていたのと違つた」。当時は子どものように活動する姿ばかりが印象的だつたが、実際に入塾してみると地域貢献について考える事が多く、ギヤップが生まれてしまつたのだ。だが、始めたなら続けたい性格であり、いつも“やるからには楽しく”を心に留めている。楽しさを忘れず活動する中で

自身の人生年表を作つた事が転機となり、将来のビジョンが明確になつたという。改めて自分を振り返つたことで、ぼんやりとしていた夢が鮮明に描けるようになったのだ。将来カフェやギヤラリーを開き大好きな音楽が流れる中、着物を着て接客するという夢を持つ。入塾した当時は曇つていただけに、岡本さんは自身で踏み出した一步が一筋の光となり、道を照らし続けている。

多くの趣味と素敵な夢を語るその表情は笑顔で満ち溢れていた。私の中で芯がある強い女性として映つた岡本さんからは、不思議と穏やかな時間が流れているように思えた。特有の空気感を身にまとつていて、姿は自分自身をブレずに持つているからこそ生まれていると感じる。私の目標している姿そのものであり、人生の憧れとなつた。“やるからには楽しく”というモットーを、この先私がくじけそうになつた時に必ず思い出そうと思う。

インタビュアー／小坂 真穂  
(北九州市立大学経済学部3年生)



## コーディネーター Interview

45年間ものづくり一筋だった小田さん。退職後もう一度仕事をしようと思ったが、そもそも何のために働くのか、自分が何がやりたいのかを見つけていたいと思い、入塾を決めた。そこでの出会いやつながりは、会社勤めでは触れることのなかつた価値観に気づき、「社会」を知るきっかけとなつたという。そうした経験をして、現在は夢追塾のコーディネーターを務めている。コーチングする立場となつて振り返ると、塾生の時は講義を聞いていてもあまり理解していなかつたそうだ。人に教えて初

## “社会”で生きる

小田 修司さん  
おだしゅうじ



インタビュアー／坂本 優花  
さかもとゆうか  
(北九州市立大学経済学部4年生)



## 16期生 Interview

地域とは何かを学ぶため、志を持っている人との出会いがあればと入塾を決めた。聞き慣れないカタカナばかり出てくる本を読む機会や一日中活動するハードな日もあり、地域に貢献することは簡単ではないけれど、仕事でもボランティアでもないこの活動にやりがいを感じている。今まで受けてきた恩を別の世代に送りたいという藤澤さんの夢は「バレーボールの発展」と「スポーツ振興」。中学校の教師として40年以上男子バレーボールの指導をしてきた経験を生かし、一人でも多くの生徒に

達成感と朝日のような光の当たる機会を創出し、地域に根差した「わが町のクラブチーム」の構築を目指している。今は「いきいきアート塾」を開き、スポーツに必要な五感を臨床美術とアートセラピーで刺激し能力を引き出すという新しい試みにも挑戦している。行動を起こすことには必ず失敗が伴うが、これから多くの人に希望や夢を与えるために挑戦し続けたいという。

藤澤さんは人生を変えるとおしゃっていたが、私は今回の夢追塾の方々との出会いが学びや自分の将来について考え直すきっかけとなり恵まれた機会だったと強く感じる。

## 「恩送り」 ～多くの人に希望や夢を～

藤澤 佳隆さん  
ふじさわよしだか



インタビュアー／宇土 紗代  
うど さよ  
(北九州市立大学経済学部3年生)

めてわかるというように、倍くらい勉強して自分が本質を理解しないと相手にも理解してもらえない。自分はそこがまだまだだと、小田さんは語った。今後の目標は、いろんな人と出会い、行動し、挑戦すること。既にドローンを使つた空撮やY o u T u b e 投稿を手掛けるなど新たなことにチャレンジしている。バイタリティ溢れる小田さんの、今後の活躍が楽しみだ。

生き生きと話す小田さんの姿から、目の前の困難も楽しんでやっている様子が感じ取れ、私もこんな大人になりたいと素直に思った。いろんな繋がりを持つて多様な価値観に触れることで、社会を知り、その中で選択肢を増やしていく。そういう機会が夢追塾にはあつた。小田さんとのインタビューを通して、改めて挑戦することの意義と学び続けることの大切さを学んだ。やりたいことに対する愚直に行動していきたい。

藤澤さんに話を伺い、継続して行動すること、人の出会いの大切さを学んだ。夢追塾の方々は地域貢献の仕方や、きかつけはそれぞれ異なるが、熱い思いを持った方々の集まりだからこそ刺激し合い、継続して行動することができるのだろう。藤澤さんは、出会いは人生を変えるとおしゃっていたが、私は今回の夢追塾の方々との出会いが学びや自分の将来について考え直すきっかけとなり恵まれた機会だったと強く感じる。

## 16期生プロジェクト紹介

地域の人々の孤立が問題視されている中で、東田あーとYチームはそのような問題を少しでも解消することができるよう、「多世代交流の場を作る」ことをプロジェクトの戦略的ゴールに決めて、チームで学んできました。東田あーとYの目指す交流の場では、訪れた方のこころとからだを元気にするために臨床美術や音楽療法など老若男女問わず楽しめるプログラムを準備し、「脳がよろこぶ 心が笑う」体験をすることができます。令和4年7月に予定しているプロジェクトのキックオフに向けてチームでさらに学びを続けます。



## 背中を見る人プロジェクト紹介

我々、北九州市立大学経済学部松永ゼミの学生は、「背中を見る人プロジェクト」として、夢追塾に参加しました。時にはみなさんがプロジェクトを作っていく過程を観察し、時には「一对」で対話をし、時には発表に対するフィードバックを行いました。また、課程修了後には、夢追塾で学んだことやこれから夢について塾生にインタビューを行い、記事を作成しました。こうした活動を通じ、塾生と学生はお互いにプラスの影響を与える関係を築けてきたように思います。企画し実践することも学びですし、観察することも学びです。世代を越えて対話をすることも、大きな学びです。この冊子はそうした学びの結果をまとめたものです。夢追塾の魅力と共に、活動をすぐそばで見てきた学生から見た塾生の姿をお伝えしたいと思います。

北九州市立大学 経済学部  
松永ゼミ生一同



## コーディネーター Interview

下田さんは昨年夢追塾を卒塾した。卒塾前から携わっていた穴生学舎の指導員として活動していたが、夢追塾のコーディネーターの誘いを受け、再び夢追塾に関わることになった。他のベテランコーディネーターとは違い、自分はまだ新米だと言語る下田さん。それ故に、塾生からの疑問や困難に共感しやすく、自分が塾生だった時も同じように悩んだことがあると声をかけることが多い。下田さんの言葉で不安が和らぐ塾生も少なくないだろう。

下田さんは塾生と同じ目線で対話できる貴重な存在なのである。夢追塾は塾生主体で活動していくため、コーディネーターとして一步引くべきところと助言するべきところを見極めるバランスが難しいのだそう。それに加え、どういったやり方でサポートしていくべき塾生のやる気を削がずに助言できるのか、対応の仕方も難しい。下田さんは自分の経験を還元しながら塾生と向き合い続け、そして自分自身も学び続けている。

できる貴重な存在なのである。夢追塾は塾生主体で活動していくため、コーディネーターとして一步引くべきところと助言するべきところを見極めるバランスが難しいのだそう。それに加え、どういったやり方でサポートしていくべき塾生のやる気を削がずに助言できるのか、対応の仕方も難しい。下田さんは自分の経験を還元しながら塾生と向き合い続け、そして自分自身も学び続けている。

経験がないちは何もできないと思いつがちだが、その立場だからこそできることがあるといふことをこのインタビューで知ることができた。相手とほぼ変わらない立場の時こそ、共感もアドバイスもしやすくなる。そんな立場のサポートは塾生にとって身近な存在になり、いい雰囲気づくりもできるのだろう。私ももうすぐ社会人のスタートラインに立つが、その時期にしかできないことを逃さないようにしたいと思った。

## 夢追塾 2ndシーズン



インタビュアー／  
大畠 美羽  
(北九州市立大学経済学部3年生)

## 夢追塾メソッド

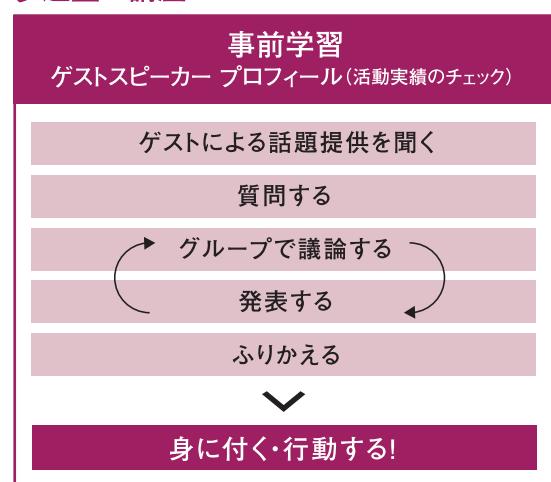
### あなたが主役の90分

夢追塾の講座では、地域活動に必要な要素をテーマに、ゲストや塾生による話題提供を聞く、自分で考える、グループで議論する、まとめる、発表するというプロセスを体験します。

#### 従来の講義



#### 夢追塾の講座



講師が主役(主体)の講義 → 「塾生」が主役(主体)の講座

#### 特徴① 塾生をサポートする産婆さん「コーディネーター」

経験豊富な夢追塾卒塾生の「コーディネーター」が産婆さんのように寄り添い、塾生の力を引き出すお手伝いをします。講座の企画立案を行い、後期課程で実際に立ち上げたプロジェクトのファシリテートをします。わからないことがあれば何でも相談することができます。夢追塾での学びを体験しているからこそ、塾生に寄り添ったサポートすることができます。

#### 特徴② 背中を見る人プロジェクト

#### 北九州大学ゼミ生徒のコラボ

夢追塾—塾生の活動を客観的に観察・記録し、フィードバックすることで、新しい気づきや今後の進行などに役立てます。

#### 特徴③ 地域の事例から学ぶ

#### 現地で学ぶ視察研修

地域活動を実践し活性化に寄与する地域事例を実際に現地で学びます。現地の方との意見交換から見聞を広め、学びを深めます。

## SOCIAL MASTER SCHOOL

# 生産する楽しさを取り戻す

松永 裕己

北九州市立大学 マネジメント研究科



夢追塾の特徴のひとつに「まち全体がキヤンパス」があります。新型コロナもあって充分にできていない部分もあるのですが、「まちで学ぶ」ことには大きな意味があります。

そもそも「まち」とはどのような場所でしょう。まち＝都市は消費機能が集積した場所です。買い物する場所、遊び場所ですね。一方で、まち＝都市は生産する場所でもあります。

消費と生産は対極にあるものですが、

よく考えてみるとその線引きは難しいところがあります。たとえば映画を見ることは消費です。では映画を見て誰かに感想を喋ってみたらどうでしょうか？あるいは、さらにその感想をブログやSNSに載せてみたら？

その感想を見た人が「そんな見方があるんだ」と気づきを得たとしたら？

生産とは、原料を投入し、何らかの加工を施し、新たなものを生み出すことです。ということは、映画を見て、頭の中で解釈し、感想や批評を言語化するのも立派な生産活動になります。映画に感動して誰かに喋りたくなるというのはよくあることです。それは生産する楽しさを取り戻すことには繋がるのではないかと私は

考えています。「産みの苦しみ」という言葉があるとおり、何かをつくり出すことには困難が伴いますが、やりがい

とです。それは生産する楽しさを取り戻すことには繋がるのではないかと私は

考えています。

夢追塾は地域で活躍する人材を育てる目的としています。言い換

えれば、まちで何かを生み出す能力

を身につけられるようになるとい

うことです。それは生産する楽しさを取り戻すことには繋がるのではないかと私は

考えています。

夢追塾は地域で活躍する人材を育

だという認識ができています。しかし

生産は人間の本来的活動のひとつで

すし、消費と同じくらい楽しい活動で

あるはずです。

よいと考えてみるとその線引きは難しいところがあります。たとえば映画を見るることは消費です。では映画を見て誰かに感想を喋ってみたらどうでしょうか？あるいは、さらにその感想をブログやSNSに載せてみたら？

その感想を見た人が「そんな見方があるんだ」と気づきを得たとしたら？

生産とは、原料を投入し、何らかの加工を施し、新たなものを生み出すことです。ということは、映画を見て、頭の中で解釈し、感想や批評を言語化するのも立派な生産活動になります。映画に感動して誰かに喋りたくなるというのはよくあることです。それは生産する楽しさを取り戻すことには繋がるのではないかと私は考えています。「産みの苦しみ」という言葉があるとおり、何かをつくり出すことには困難が伴いますが、やりがいとです。それは生産する楽しさを取り戻すことには繋がるのではないかと私は考えています。

夢追塾は地域で活躍する人材を育てる目的としています。言い換

えれば、まちで何かを生み出す能力

を身につけられるようになるとい

うことです。それは生産する楽しさを取り戻すことには繋がるのではないかと私は

考えています。

夢追塾は地域で活躍する人材を育

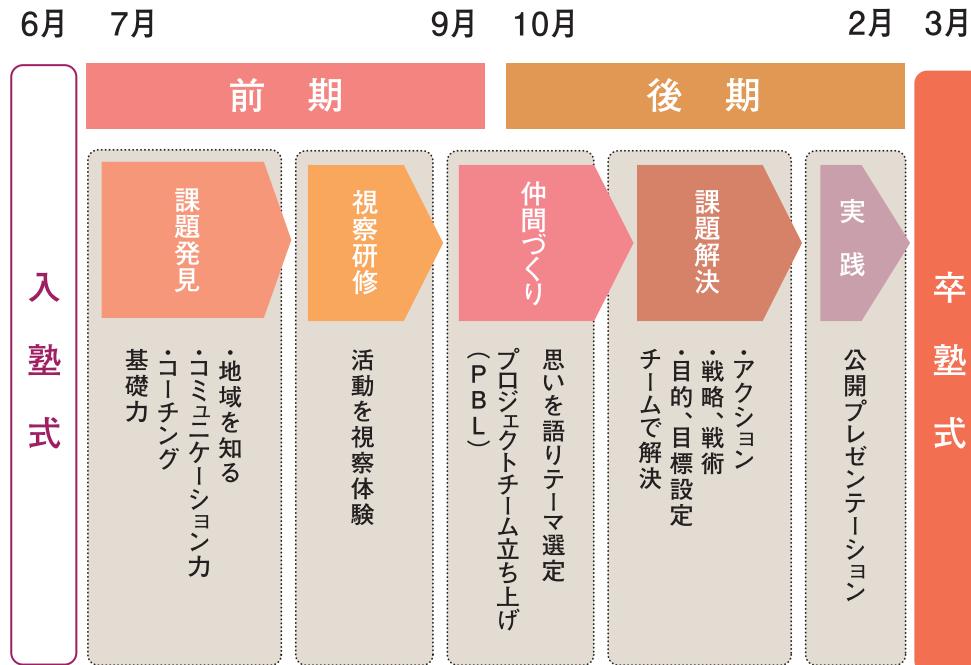
だという認識ができています。しかし

生産は人間の本来的活動のひとつで

すし、消費と同じくらい楽しい活動で

あるはずです。

## 年間スケジュール



<b>入塾対象者</b>	概ね50歳以上で市内に在住する方もしくは、市内に勤務している(していた)方
<b>受講期間</b>	6月～翌年3月
<b>定 員</b>	40名目安(書類審査と面接による選考があります)
<b>受講料</b>	年間5万円
<b>講座会場</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●いきがい活動ステーション(小倉北区魚町)</li> <li>●八幡西生涯学習総合センター(八幡西区黒崎)</li> <li>●ユースステーション(八幡西区黒崎)</li> <li>●アジア太平洋インポートマート(小倉北区浅野)</li> </ul>

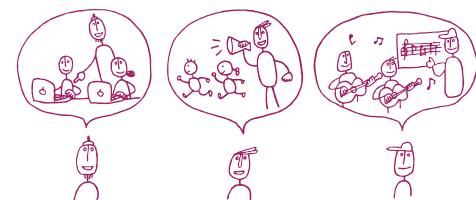
## 学びのポイント

### 楽しく、互いに、体験から学ぶ

夢追塾は、楽しく学ぶことをモットーとし、熱い思いを持った仲間と交流を深める場でもあります。仲間と楽しみながら取り組むことで学びが深まる。ここが魅力です。

#### POINT 1 自分を活かしてお役に立つ

これまで職場や趣味で培ってきた**知識や経験**、ネットワークなどの能力を地域で役立てます。

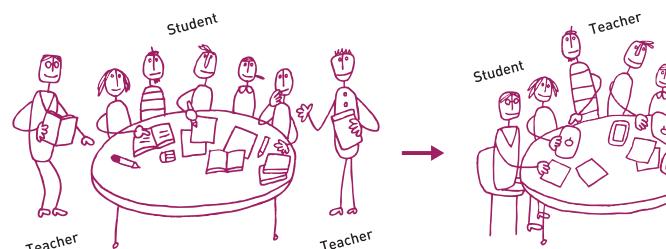


#### POINT 2 体験から学ぶ

現場におもむいて調査・研究を行ったり、地域で活躍している団体の活動を実際に**体験**しながら学びます。

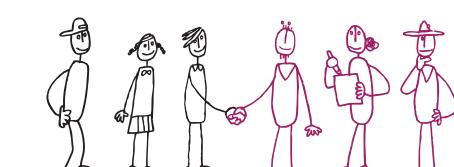


#### POINT 3 塾生同士で学び合う



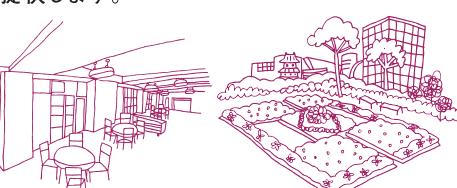
#### POINT 4 若者と互いに学び合う

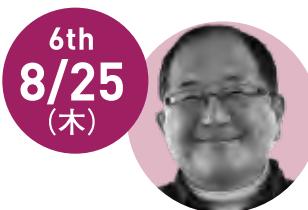
大学生などの**多世代**にも関わってもらい、違う感性から得られる「気づき」や「発見」を大事にします。



#### POINT 5 まち全体がキャンパス

夢追塾は**まち全体**が学び舎です。北九州市内のさまざまな施設を活用し、多様な学びの場を提供します。





6th  
8/25  
(木)

## 櫻木 準一 (さくらぎ じゅんいち)

語り部 AKB-6

1952年大分県生まれ。1972年新日本製鉄株式会社八幡製鐵所入社。  
2004年北九州環境プラントサービス株式会社代表取締役社長就任。  
2016年退職。小学校で郷土愛を伝える語り部として活動中。



7th  
9/1  
(木)

## 甲木 正子 (かつき まさこ)

西日本新聞社 執行役員北九州本社代表

北九州市生まれ。1988年、男女雇用機会均等法2期生として西日本新聞社に記者として入社後は、北九州本社営業部長、グループ経営委員会委員、北九州本社副代表などを経て2021年6月より現職。



8th  
9/8  
(木)

## 林 沙知枝 (はやしさちえ)

NGOしらゆり会ハミングバーズ代表

1960年北九州市生まれ。日本でモンゴルの子どもたちによる伝統芸能のチャリティーコンサートを開催しながらモンゴル児童養護施設「太陽の子どもたち」の支援活動を展開。



9th  
9/15  
(木)

## 柚須 亮太郎 (ゆすりょうたろう)

九州電力株式会社 執行役員 北九州支店長

1963年大分県生まれ。鹿児島大学工学部卒。1986年九州電力株式会社入社。1994年ニューヨーク大学大学院行政学修士。火力部、海外事業部などを経て、2019年より現職。



10th  
9/22  
(木)

## 小田 修司 (おだ しゅうじ)

NPO法人夢追いサポートセンター

1953年北九州市生まれ。大和ハウス工業株式会社を定年退職後、45年間のモノづくり生活から一転、地域で自分を含めたシニア世代の活躍をサポート・マッチングするという新しい挑戦を始めた。



11th  
9/29  
(木)

## 齋藤 貞之 (さいとう さだゆき)

北九州市立大学名誉教授

1945年北九州市生まれ。1991年北九州大学商学部(現北九州市立大学経済学部)教授。2007年より同大学院マネジメント研究科長。ドラッカー、マネジメントを専門とし、福岡ひびき信用金庫顧問も務める。

# 夢追い人 ドリカムイレブン

## 令和4年度夢追塾講師紹介

その出会いから何が見えてくるのか?生涯現役で夢を追い続けている11人に直撃してみる!!



1th  
7/14  
(木)

## 楠 稔幸 (くす のりゆき)

若松TERAKOYAプロジェクト主宰

北九州市若松区生まれ。日立金属株式会社を定年退職後、2017年に若松区を安心安全な町にするために2017年、同志とプロジェクトを立ち上げ、縁側カフェ、寺子屋クラブなど5つのクラブを運営している。



2th  
7/21  
(木)

## 田中 雄平 (たなか ゆうへい)

NPO法人自立生活センターぶるーむ代表

1972年北九州市生まれ。1995年司法書士試験合格。1996年米国カリフォルニア州にて、障害者の権利擁護システムを学ぶ。2007年「障害当事者のニーズは、障害当事者が一番知っている」との考えのもとNPO法人自立生活センターぶるーむを設立。



3th  
7/28  
(木)

## 玉井 行人 (たまい ゆきと)

ギラヴァンツ北九州 代表取締役社長

1957年、北九州市若松区生まれ。西日本新聞社に入社後、2012年に北九州本社副代表兼編集長、2013年には執行役員北九州本社代表に就任。2017年に同社退職後、2018年から現職。



4th  
8/4  
(木)

## 古賀 厚志 (こが あつし)

元北九州市若松区長

1961年北九州市生まれ。1986年北九州市役所に入職。教育次長、若松区長等を歴任。2018年からオカリナ演奏を通じて、地域の方へ人生100年時代を楽しく過ごすためのメッセージを発信している。



5th  
8/18  
(木)

## 石橋 孝三 (いしばしこうぞう)

株式会社光タクシー代表取締役

1998年常務取締役として入社後、2000年に「枝光やまさか乗合ジャンボタクシー」を開業。2004年代表取締役社長就任。2020年企業フィランソロピー賞、北九州SDGs未来都市アワード賞などを受賞。

夢追塾 卒塾生

# 楽しみながら地域で活躍!!



下川和士さん  
夢追塾1期生

NPO法人で  
北九州地域の  
陸上競技発展を  
サポート

夢追塾で、北九州市で走  
高跳びのアジア大会日本代  
表だった自分にできる恩返  
しを学びました。現在は  
NPO法人北実会で北九  
州の陸上競技発展のために  
活動しています。



宮尾節子さん  
夢追塾3期生

「よさこい夢追いたい」  
を結成し被災地や  
デイサービスに慰問

塾の仲間と結成した「よさ  
こい夢追いたい」では、被災地  
やデイサービス等慰問に訪れ  
てみなさんと一緒に楽しんでい  
ます。自分のスキルや経験をい  
かして夢を実現中です。



萩原詩子さん  
夢追塾11期生

北九州で  
学び、  
魅力を発信

東京から移住して夢追塾  
に入塾しました。北九州で様  
々な経験を持つ者同士が対  
等に話し合えたことはとても  
良い体験でした。現在は「チ  
ムレインボー」で北九州の魅力  
を発信しています。



常光孝一さん  
夢追塾2期生

仲間と共に次々に  
イベントを企画

自分のやりたいことは何だろ  
うかと入塾しました。塾の仲間  
とは、ウォーキング大会・はしご  
酒大会・笑いヨガクラブ・80歳  
からの合唱団北九州等を企画  
運営しながら生涯現役で  
楽しんでいます。



楠稔幸さん  
夢追塾9期生

誰もが気軽に  
立ち寄れる  
縁側カフェを  
オーブン

塾で学んだ「仲間づくり」の方  
法で「若松TERAKOYA  
プロジェクト」を立ち上げました。  
地域の方に仲間になつてもらい、  
大きなチカラをいただきながら  
安心して暮らせるまちづくりを  
目指しています。



伊藤宏夫さん  
夢追塾12期生

留学生との交流を  
深めるプロジェクトを  
立ち上げ

専門学校で留学生を指導し  
ていた経験から、留学生にとつて  
も住み良いまちにしたい思いが  
ありました。「愛しとるつちや北  
九州」チームでは留学生と市民  
の交流の場を提供しています。

